



県民の森 植物紹介 (29) —ヒメアオキ (アオキ科アオキ属)—

美しい赤い実と、光沢があるテカテカと反射する葉が、とても印象に残ります。枝も幹も緑色で、昔は緑色も「青」に含まれていたのが「青木」といいます。八幡平に自生しているのはヒメアオキです。太平洋側に自生するアオキに対して、ヒメアオキは日本海側の雪の多い地域に自生します。高さが2～3mのアオキに対して、多雪地帯の影響でひと回りほど小さいことから「姫」を付けてヒメアオキとなりました。アオキと違い、若枝、葉の柄、葉の裏に細かい毛があります。

花は3月～5月ごろ、チョコレート色の小さな花が咲きます。よく見てみると気品があつてたいへん美しい花です。雌雄異株で、実は雌株に1月～5月ごろ出来ます。翌年の開花の頃まで実が付いているので、1年中見ることが出来ます。小さな赤い実は鳥の大好物。ヒメアオキは背が低いので風で種を運ぶことが出来ず、鳥に種を運んでもらうために、このような鳥に目立つ実になったそうです。

ヒメアオキは園内あちこちで見られますが、七滝登山道で多く見られます。

